「すべてのことを益として下さる神」ローマ8：２８－２９　　　１８・７・22

Ⅰ　非劇的な状況を耐え忍び、逆境を乗り切る事ができたヨセフの信仰の秘訣

１．ヨセフは、「神は、私達が経験するすべてを見ておられ、ご存知で、支配しておられる」という御言葉の真理、神ご自身を信頼していた。神が自分の人生に起こっている事をすべて見ておられ、支配しておられる事実を決して疑わなかった。

「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りに頼るな。あなたの行く道すべてにおいて、主を知れ。主があなたの進む道をまっすぐにされる」箴言３：５，６。

「雀の一羽でさえ、あなたがたの父の許しなしに地に落ちることはありません」マタイ１０：２９。

ヨセフの身に問題が迫る度に、５回に渡り、繰り返されている御言葉がある＝

「しかし、主はヨセフとともにおられた」（創世記３９章）。

すべてが悪い方向に向いているときでさえ、主は、ヨセフと共におられ、私達とも共におられる！

２．ヨセフが確信していた２つ目の真理は、「神は、事の成り行きを究極的にコントロールしておられる」という事実。神は、私たちの罪と、他の人々が私達に犯す罪を取り扱われる。自ら、へりくだり、それらを悔い改める時、「悪い事」を「良い事」へと変えて下さる。

私達が弱くても、神は、既に戦いに勝利しておられる。最悪な状況さえ、神は私達のために良いものへと変える事がおできになる。人生が、どうしようもない状況になっていると感じる時でさえ、最終決定権を握っておられるのは神ご自身！

Ⅱ　ヨセフに与えられた試練

危うく殺されかけ、奴隷として売られ、仕えていたご主人の妻の誘惑に負けないで聖さを保ったが、その主人の妻の嘘で牢獄に入れられた。彼の人生は、下り坂を転げ落ちるような人生だった。

しかし、神はそれらの悲劇的な出来事をすべて支配しておられ、ヨセフの思いをはるかに超えた状況へと変えて下さった。

彼は、牢獄で、エジプトの王パロの右腕として働いていた男性と親しくなった。この男性が再びパロの元で働き始め、パロが見た夢のことを聞いた時、ヨセフが夢の解き明かしをしていたことを思い出した。そのことで、ヨセフは牢獄から出され、パロの夢を神の力で説き明かした。

パロは、ヨセフに非常に感銘を受け、彼をエジプト全土を統括する副司令官に任命した。

こうして、エジプトとイスラエルを含む近隣諸国を飢饉から救う事に、神がヨセフを用いられた。

神は事の成り行きをご覧になっている。もし私達が、神に委ねるなら、神は、私達の身に起こった悪い出来事さえも良いものに変えて下さり、最終的に益（人格的な成長、神の計画の前進）として下さる。

神に委ねるとは、どんな状況の時でも神に信頼するという事。

いつも主を信頼していたヨセフは、人生の終盤で兄弟達に「あなたがたは私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとしてくださいました」（創世記５０：２０）と言う事が出来た。神がヨセフの非常に辛い境遇を益とされたのは、たとえ、彼が、次から次にやって来る辛い状況の意味をすぐには理解できなくても、彼が主に信頼して、あきらめてしまわなかったからです！

Ⅲ　逆境に対処するあなたは今、試練の中におられるかもしれない。他の人が引き起こしたトラブルの被害者かもしれない。

１．厳しい試練の中でヨセフは、自己憐憫や、やけになる事に身を委ねなかった。

自己憐憫は、うつ状態を引き起こす。試練の中で、自己評価の低い人は、自分の存在を否定し、さげすみ、「自分だけが、なぜ？」という負の状態になり易い。ヨセフは、試練の中で主から信仰の目を離さず、主

と共に、試練の嵐を受け留めた。これは最善！

2．試練の中で落胆し、「なぜ、こんなことが私に起こったのか」と感情が冷静でない時、次の大切な原則を覚えておきたい＝「落胆している時、感情が冷静でない時、大きな決断をしてはいけない」。
落ち着いて、一呼吸置こう！神の前に静まろう！
落胆している時の感情を当てにしてはいけない。正確な判断力を失い、的外れで、歪んだ物の見方、考え方しかできなくなっているから。

3．不当な扱いの試練の中で、人を恨まなかった。
恨みに、人生の貴重なエネルギーを費やさなかった。ひどい扱い、辛い中に置かれても、主を信頼し、そこで、与えられた任務に忠実だった。神はそれを見ておられ、後に大きな任務を任された。
私達が、誰かを恨み赦せない誘惑に駆られる時、大切な事は、今日まで、いかに自分自身が、主に赦され続けて来たかを、静かに思い返す事である。今も赦され、滅びないで生かされている奇蹟に気付く！
その時、神への溢れる感謝と人を赦さない資格はないと分からさせて下さる！

4．神は、どうしようもない状況をも益として下さる。
だれかが、あなたを破滅に追いやる為に利用した状況さえ、神は、あなたのために益として下さる事がお出来になる。神は、人の目に、悪が勝ち、敗北に見えた主の十字架を、私達を救う最大の益の御業とし、勝利の復活まで与えられた！
人の目にマイナスな状況を霊的なプラスに変えて下さる神！失望してはならない。すべてを益として下さる神に心の目を向けよう！

Ⅳ　ローマ８：２８，２９の意味

1．「神を愛する人たち（神が先に愛して下さった恵みを知り、感謝し神を愛する人々、愛の実を結ぶ御聖霊の力により）、すなわち、神のご計画にしたがって召された（救いに呼ばれた私達、神が先に私達を救いに選んで下さった恵み）人たちのためには、すべてのこと（人の目に良い事、悪く見える事すべて、試練、苦しみ、失敗、祝福）がともに（この訳は原語に忠実。人生の出来事を単独で取り出して「なぜ、これが益ですか」と言ってはいけない。神は、すべての出来事を支配し、良い事も悪く見える事も、すべての事を結び合せ、組み合せ、混ぜ合わせ、ブレンドし益とされる）働いて益となる」ローマ８：２８。

2．「神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです」
８：２９。
「益」とは、私達が、御子の姿に成長する事、変えられ続ける事。
神は、私達に与えられる試練、苦しみ、私達の失敗を無駄にせず、それらを用いて、
①私達に自分の弱さに気付かせ、もっと神に拠り頼ませ
②自分の罪深さに気付かせ、悔い改めに導き、主の聖さに変えられ
③苦しみや失敗を通して、今までより他の人に寄り添う人、思いやり深い人に私達を変え続けて下さる深い深い「益」。
「霊の父は私たちの<u>益</u>のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです」
ヘブル１２：１０